

第2節 環境改善・水質関係異常事故

第1 水生生物調査

1 目的

鳥類・魚類等の水生生物の生息状況は、河川・海域調査の理化学的・物理的な水質測定に比べより長期間の水辺環境を反映する。大田区環境基本計画（後期）で示されている基本目標D「自然共生社会の構築」では、都市化が進行した大田区内において自然共生社会の実現を目指すために、水と緑の量的な確保・拡大やネットワーク化を図るとともに、生き物が生育・生息するための環境改善等の水辺や緑地における質的向上を図りそれらを有機的に繋げる「エコロジカルネットワーク」を形成する必要があるとされている。

本調査によって区内全域の水辺環境を広く体系的に調査し、絶滅危惧種や外来種の把握も行う。調査結果は、環境学習や開発時の環境保全対策を講ずるための基礎資料として活用する。

2 調査地点

大田区内・地先の多摩川・呑川・内川・洗足池・運河海域において、委託により専門家による魚類・底生動物等調査、鳥類調査を各7地点で実施した。表1に水域ごとの調査地点と対象生物、図1に調査地点を示す。

表1 調査地点

水 域	地 点 名	魚 類 ・ 底 生 動 物	鳥 類
多摩川	①田園調布～鶉の木緑地	○	○
	②六郷橋緑地	—	○
	③大師橋緑地	○	○
	④多摩川・海老取川分岐点 ^{注1}	○	—
呑 川	⑤上流域(八幡橋付近)	○	—
	⑥中流域(養源寺橋付近)	○	—
内 川	⑦四之橋～諏訪橋 ^{注2}	○	—
洗足池	⑧全域	—	○
運河海域	⑨京浜島つばさ公園～緑道公園	○	○
	⑩呑川河口～森ヶ崎の鼻	—	○
	⑪ふるさとの浜辺公園	—	○
地点数		7 地点	7 地点

注1) 海老取川の工事により、春期は右岸側。夏期は左岸側にて調査を実施した。

注2) 諏訪橋付近の工事により、下流側を中心に調査を実施した。

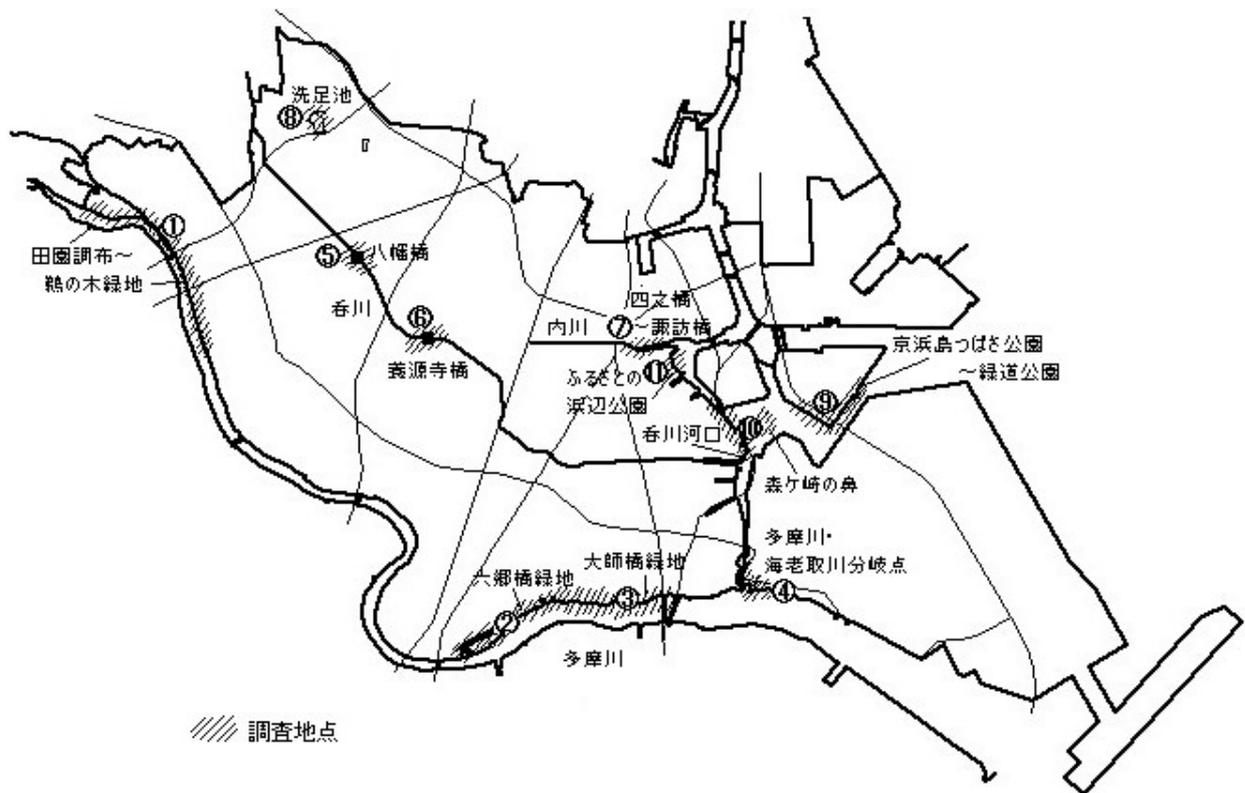


図1 調査地点図

3 調査時期

調査時期を表2に示す。

表2 調査時期

調査項目		調査日程
魚類・底生動物調査	春期	令和元年6月3日～5日
	夏期	令和元年7月31日、8月1日～2日
鳥類調査	春の渡り期	令和元年5月7日～9日
	繁殖期	令和元年6月4日～6日
	夏期	令和元年8月14日～16日
	秋の渡り期	令和元年9月30日、10月1日～2日
	越冬期	令和2年1月27日、29日～30日

4 調査方法

(1) 魚類・底生動物等

手網（タモ網）、投網、エクマンバージ採泥器等を使用し、採集を行った。採集した魚類・底生動物は、種名、分布状況などの記録を行い、写真撮影した。

(2) 鳥類

各調査地点を踏査し、目視観察及び鳴き声などで確認された鳥類の種名、個

体数の概数などを記録した。

5 調査結果

(1) 魚類・底生動物等

魚類は 8 目 14 科 34 種(春期 29 種、夏期 19 種)、底生生物は 25 目 43 科 56 種(春期 54 種、夏期 43 種)が確認された。表 3、表 4 に確認種一覧を示す。

表3 魚類確認種一覧

目名	科名	水域名・地点名							
		多摩川			呑川		内川	運河海域	
		田園調布～ 鶯の木緑地	大師橋緑地	海老取川 分岐点	八幡橋 付近	養源寺橋 付近	四之橋～ 諏訪橋	京浜島 つばさ公園	
ウナギ	ウナギ			ニホンウナギ					
ニシン	ニシン							コノシロ	
コイ	コイ					コイ			
		フナ属							
		オイカワ							
		ウグイ属	ウグイ属	ウグイ属	ウグイ属	ウグイ属	ウグイ属		
		ニゴイ属							
スゴモロコ属									
サケ	アユ				アユ				
ボラ	ボラ	ボラ	ボラ	ボラ		ボラ	ボラ	ボラ	
トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ							トウゴロウイワシ	
ダツ	メダカ	ミナメダカ				ミナメダカ			
	サヨリ							サヨリ	
スズキ	スズキ						スズキ	スズキ	
	ヒラギ							スズキ	
	タイ								クロダイ
				キチヌ	キチヌ				キチヌ
	タウエガン			ダイナンギンボ				ダイナンギンボ	
	イソギンボ			トサカギンボ				トサカギンボ	
				イダテンギンボ				イダテンギンボ	
	ハゼ				ミミズハゼ属				ミミズハゼ属
					トビハゼ				
					マハゼ	マハゼ		マハゼ	マハゼ
					アシシロハゼ				
					アベハゼ			アベハゼ	
					マサゴハゼ			マサゴハゼ	
					シモフリシマハゼ				
ヌマチチブ				ヌマチチブ					
				チチブ属			チチブ属		
							ヒナハゼ		
			ウロハゼ			ウロハゼ	ウロハゼ		
スミウキゴリ				スミウキゴリ	スミウキゴリ				
						ビリンゴ			
				ドロメ			ドロメ		
種類数の合計	8目14科 34種	9種	7種	14種	3種	5種	11種	14種	
種類数の合計 平成28年度	8目13科 31種	13種	11種	13種	3種	3種	7種	13種	
種類数の合計 平成25年度	9目14科 33種	14種	4種	6種	7種	5種	9種	11種	

注1) 種名や並び順等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和元年度版」(国土交通省、令和元年)に準拠した。

注2) チチブ属はシモフリシマハゼ、ヌマチチブ、チチブの可能性があり、重複する場合は種数の合計には含めなかった。

表4 底生動物確認種一覧

目名	科名	水域名・地点名						
		多摩川			呑川		内川	運河海域
		田園調布～ 鶉の木緑地	大師橋緑地	海老取 分岐点	八幡橋 付近	養源寺橋 付近	四之橋～ 諏訪橋	京浜島 つばさ公園
旗口クラゲ	ミズクラゲ		ミズクラゲ	ミズクラゲ				ミズクラゲ
イソギンチャク	タテジマイソギンチャク						タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク
三岐腸	-				三岐腸目			
-	-		紐形動物門					
新生腹足	タマキビ						タマキビガイ	タマキビガイ
	カワザンショウガイ		カワザンショウガイ科	カワザンショウガイ科				
	カリバガサガイ							シマメノウフネガイ
	アッキガイ							アカニシ レイシガイ
汎有肺	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ			ヒメモノアラガイ			
	サカマキガイ				モノアラガイ科 サカマキガイ	モノアラガイ科 サカマキガイ		
イガイ	イガイ							ムラサキイガイ
			コウロエンカワヒバリガイ	コウロエンカワヒバリガイ			コウロエンカワヒバリガイ	コウロエンカワヒバリガイ
ウグイスガイ	イタボガキ			マガキ			マガキ	マガキ
マルスダレガイ	シジミ		ヤマトシジミ	ヤマトシジミ			ヤマトシジミ	
	マルスダレガイ			アサリ				ホンビノスガイ アサリ
サシバゴカイ	チロリ							チロリ科
	ゴカイ		カワゴカイ属	カワゴカイ属			カワゴカイ属	カワゴカイ属
スピオ	ミズヒキゴカイ							ミズヒキゴカイ科
イトゴカイ	イトゴカイ		イトゴカイ科	イトゴカイ科			イトゴカイ科	イトゴカイ科
ケヤリムシ	カンザシゴカイ			カンザシゴカイ科			カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科
イトミミズ	ミズミミズ				エラミミズ			
		ミズミミズ科			ミズミミズ科	ミズミミズ科		
吻蛭	ヒラタビル					ヒラタビル科		
吻無蛭	イシビル					シマイシビル		
フジツボ	フジツボ			タテジマフジツボ			タテジマフジツボ	タテジマフジツボ
				アメリカフジツボ			アメリカフジツボ	
				シロスジフジツボ			シロスジフジツボ	シロスジフジツボ
			ドロフジツボ					
ヨコエビ	ユンボソコエビ			ユンボソコエビ科			ユンボソコエビ科	ユンボソコエビ科
		ヨコエビ目	ヨコエビ目	ヨコエビ目			ヨコエビ目	ヨコエビ目
ワラジムシ	コツプムシ			コツプムシ科			コツプムシ科	
	フナムシ						フナムシ属	フナムシ属
エビ	ヌマエビ	カワリヌマエビ属						
	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ				テナガエビ	
				ユビナガスジエビ			ユビナガスジエビ	ユビナガスジエビ
			シラタエビ	シラタエビ				
	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ						
	ホンヤドカリ							ユビナガホンヤドカリ
	コブシガニ							マメコブシガニ
	ワタリガニ						チチュウカイミドリガニ	
								イシガニ
	ベンケイガニ						クロベンケイガニ	
	モクズガニ	モクズガニ			モクズガニ			
			アシハラガニ					
			タカノケフサイソガニ	タカノケフサイソガニ			タカノケフサイソガニ	タカノケフサイソガニ
	コメツキガニ	チゴガニ	チゴガニ	チゴガニ				
		コメツキガニ	コメツキガニ	コメツキガニ				コメツキガニ
	オサガニ	ヤマトオサガニ	ヤマトオサガニ	ヤマトオサガニ			ヤマトオサガニ	
カゲロウ(蜉蝣)	コカゲロウ	フタバカゲロウ属 コカゲロウ科				コカゲロウ科	コカゲロウ科	
トンボ(蜻蛉)	カワトンボ	ハグロトンボ						
	サナエトンボ	サナエトンボ科						
カメムシ(半翅)	アメンボ	アメンボ						
トビケラ(毛翅)	ヒメトビケラ	ヒメトビケラ科			ヒメトビケラ科			
ハエ(双翅)	ユスリカ	ユスリカ科			ユスリカ科	ユスリカ科		
	オドリハエ		オドリハエ科					
コウチュウ(鞘翅)	ゲンゴロウ	モンキマメゲンゴロウ						
確認種の合計	25目43科 56種	14種	17種	20種	10種	5種	20種	26種
			37種		10種			
確認種の合計 平成28年度	29目53科 67種	10種	22種	20種	11種	10種	22種	28種
			38種		16種			
確認種の合計 平成25年度	13目25科 32種	5種	14種	16種	3種	4種	15種	14種
			26種		6種			

注1) 種名や種順等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和元年度版」(国土交通省、令和元年)に準拠した。

注2) ○○属、○○科などと表記したものについては、他種と重複の可能性がある場合は種数の合計には含めなかった。

多摩川では23種の魚類、37種の底生生物が確認された。田園調布緑地は、調布取水堰上流に湛水域が形成され、湛水域の上流側には早瀬がみられる。岸際にはヨシなどの植生帯がみられる。また、大師橋緑地では広域な泥質干潟が発達し、環境省のレッドリストで準絶滅危惧に上げられているトビハゼをはじめ、マサゴハゼやヤマトシジミ、ヤマトオサガニなどの干潟生物が多数確認され、干潟に接して発達するヨシ帯はアシハラガニの良好な生息環境となっている。河口に近い多摩川・海老取川分岐点はニホンウナギやシモフリシマハゼなどの魚類、砂質干潟はカワザンショウガイ科やカワゴカイ属、岩礁はダイナンギンポ、トサカギンポ、ミミズハゼ属などの良好な生息環境となっている。

区内を流れる内川や呑川は、護岸の施された小規模な都市河川であるが、内川では魚類11種、底生生物20種、呑川では魚類6種、底生生物10種が確認された。特に干潮時に干出する干潟を有する内川では比較的多くの種類が確認され、護岸壁面部にはヒナハゼやクロベンケイガニ、干出する泥質干潟ではカワゴカイ属やヤマトオサガニの良好な生息環境となっていた。呑川では確認種類数はやや少ない結果となったが、上流側の護岸の河床部に設けられた切欠きなどではアユやスミウキゴリ、モクズガニなどが確認された。

運河海域である京浜島つばさ公園付近では、魚類14種、底生生物26種が確認された。干出する砂質干潟周辺では、コノシロ、サヨリ、クロダイなどの周縁性海水魚や、アサリ、マメコブシガニ、イシガニなどの底生生物のほか、岩礁帯や転石下からはイダテンギンポやハゼ科のミミズハゼ属、巻貝のアカニシなどが確認された。

(2) 鳥類

鳥類は、14目34科71種(春の渡り期：38種、繁殖期：35種、夏期：37種、秋の渡り期：39種、越冬期：52種)が確認された。表5に確認種一覧を示す。

表5 鳥類確認種一覧

○：10羽以下、◎：11～99羽、●：100羽以上

目名	科名	種名	渡り区分	水域名・地点名							
				多摩川			洗足池	運河海域			
				田園調布～ 鶴の木緑地	六郷橋緑地	大師橋緑地	全域	京浜島つばさ 公園 ～緑道公園	香川河口～ 森ヶ崎の鼻	ふるさとの 浜辺公園	
確認種	カモ	ヒドリガモ	冬鳥	◎	◎	◎		○	◎	◎	
		マガモ	冬鳥				○	◎	◎	◎	
		カルガモ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		ハシビロガモ	冬鳥		○			○	○		
		オナガガモ	冬鳥		◎			○	◎	○	
		コガモ	冬鳥	●	◎	◎		◎	◎		
		ホシハジロ	冬鳥			○		◎	◎	○	
		キンクロハジロ	冬鳥			○		◎	◎		
		スズガモ	冬鳥	○	○	○		◎	◎	◎	
	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	○			○		○	
			カンムリカイツブリ	冬鳥			○		○		
			ハジロカイツブリ	冬鳥					○		
	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○	○	◎	○	○	
			カワウ	留鳥	●	◎	●	○	●	◎	
	ベリカン	サギ	ゴイサギ	留鳥				○			
			ササゴイ	夏鳥					○	○	
			アオサギ	留鳥	◎	◎	◎	○	◎	◎	
			ダイサギ	留鳥	◎	○	◎		◎	◎	
			チュウサギ	夏鳥	○						
			コサギ	留鳥	◎	◎	◎	○	○	○	◎
	ツル	クイナ	ヒクイナ	旅鳥		○					
			バン	留鳥		○					
			オオバン	留鳥	●	○	○	○	◎	◎	◎
	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	旅鳥				○			
	チドリ	チドリ	ムナグロ	旅鳥		◎					
			コチドリ	夏鳥	◎	◎	○				○
セイタカシギ		セイタカシギ	留鳥		○	○					
		タシギ	冬鳥								
		チュウシャクシギ	旅鳥		○	○		○	○		
		アオアシシギ	旅鳥		◎						
		キアシシギ	旅鳥		○	○		○	○		
		イソシギ	留鳥	○	○	○		◎	◎	○	
カモメ		キョウジョシギ	旅鳥					◎	◎	○	
		ユリカモメ	冬鳥	◎	●	●	◎	●	◎	◎	
	ウミネコ	留鳥			◎		◎	●	○		
	セグロカモメ	冬鳥	○		○			◎	○		
オオセグロカモメ	冬鳥	○									
コアジサシ	夏鳥	○	○	○		●	◎	○			
タカ	ミスゴ	旅鳥		○	○	○					
	タカ	トビ	留鳥	○	○	○		○	○	○	
		ツミ	留鳥				○				
		ノスリ	留鳥			○					
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥		○		○				
キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥	○			○				
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥	○	○	○		○			
スズメ	モズ	モズ	留鳥	○		○					
	カラス	オナガ	留鳥	○				○			
		ハシボソガラス	留鳥	◎	○	◎	○	○		○	
		ハシブトガラス	留鳥	○	○	◎	◎	◎	◎	○	
	シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	◎	○	○	◎	○	○		
	ヒバリ	ヒバリ	留鳥	○				○			
	ツバメ	ツバメ	夏鳥	◎	◎	◎	○	○	○	○	
		イワツバメ	夏鳥					○			
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	◎	○	◎	◎	◎	○		
	ウグイス	ウグイス	冬鳥			○	○				
	エナガ	エナガ	冬鳥				○				
	メジロ	メジロ	留鳥		◎	○	◎	◎	○		
	ヨシキリ	オオヨシキリ	夏鳥	○	◎	◎		○			
	セッカ	セッカ	留鳥	○				○			
	ムクドリ	ムクドリ	留鳥	●	●	●	○	◎	◎		
	ヒタキ	ツグミ	冬鳥	○	○	◎		○			
		ジョウビタキ	冬鳥			○		○			
		ノビタキ	旅鳥	○							
		イソヒヨドリ	留鳥	○				○	○		
	スズメ	スズメ	留鳥	◎	●	◎	◎	◎	◎		
セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	◎	○	○	○	◎	◎			
アトリ	カワラヒワ	留鳥	○	○	○		○	○			
ホオジロ	アオジ	冬鳥			○						
	オオジュリン	冬鳥		◎	○						
ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	外来種	●	●	●	◎	○	●		
インコ	インコ	ホンセイインコ	外来種	○			◎		○		
種類数の合計	14目34科71種			40種	43種	44種	30種	44種	36種	32種	
				62種				50種			
種類数の合計 平成28年度	12目32科74種			41種	40種	40種	31種	49種	37種	27種	
				59種				52種			
種類数の合計 平成25年度	14目32科68種			42種	37種	36種	23種	34種	37種	29種	
				58種				47種			

注1) 種名や種順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、平成24年)に準拠した。

注2) 確認種類数の凡例 ○：10羽以下、◎：11～99羽、●：100羽以上

注3) 渡り区分は「東京都産鳥類目録2000 自治体編 Ver.1」(日本野鳥の会東京支部、平成21年)に従った。

多摩川では62種の鳥類が確認された。大田区内の多摩川は下流域・河口域であり、淡水域や汽水域、干潟、広域なヨシ帯など多様な環境が見られる。また、広い河川敷では、樹木群や草地、芝地、グラウンドといった裸地など陸域の環境も多様である。これらの環境を反映し、カイツブリ、カンムリカイツブリ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバンなど水辺に生息する種、セイタカシギ、アオアシシギ、ムナグロなど干潟に生息する種、オオヨシキリやオオジュリンなどヨシ帯に生息する種、ミサゴ、トビ、ノスリなど広い行動圏を必要とする猛禽類、ムクドリやセッカ、モズ、ツグミなど草地や裸地で採餌する種、シジュウカラやコゲラ、メジロ、ヒヨドリなど樹林に生息する種などが確認された。

洗足池では30種の鳥類が確認された。他の調査地では確認されていないゴイサギ、エナガが確認された。洗足池のカモ類はキンクロハジロが最も多く、次にカルガモが多かった。マガモ、オナガガモ、ホシハジロは少数が確認された。カモ類を除いて個体数が多かったのはドバトであった。ほかに水辺に生息する種ではオオバン、カイツブリ、カワセミなどが確認された。

運河海域では50種の鳥類が確認された。大部分は海域であるが、海岸にはテトラポットなどの様々な人工構造物、砂浜などが整備された公園で、人工的であるが多様な環境が見られる。これらの環境を反映し、運河海域でホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモなどの海水ガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、コガモなどの淡水ガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリなどのカイツブリ類、ウミネコやユリカモメなどのカモメ類、コアジサシ、カワウ、トビなどが確認された。テトラポットなどの人工構造物上では休息や採餌するイソシギ、キョウジョシギなどのシギ類、アオサギ、ダイサギなどのサギ類が確認された。砂浜や芝地では採餌するオオバン、コチドリ、ムクドリ、ハクセキレイなどが確認された。

6 重要種の選定

魚類では9種、底生生物では11種、鳥類では31種が重要種として選定された。

重要種の選定基準を表6に、魚類・底生生物の選定結果を表7に、鳥類の選定結果を表8に示す。

表6 重要種の選定基準及びカテゴリー

No.	選定基準及びカテゴリー
1	文化財保護法(昭和25年 法律第214号) ・特天 特別天然記念物 ・天 天然記念物
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号) ・国内 国内希少野生動植物種 ・国際 国際希少野生動植物種 ・緊急 緊急指定種
3	環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2019(環境省 平成31年) ・EX 絶滅 ・EW 野生絶滅 ・CR+EN 絶滅危惧Ⅰ類 ・CR 絶滅危惧ⅡA類 ・EN 絶滅危惧ⅡB類 ・VU 絶滅危惧Ⅱ類 ・NT 準絶滅危惧 ・DD 情報不足 ・LP 絶滅のおそれのある地域個体群
4	レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版(東京都環境局 平成25年) ※「区部」に該当する種を選定 ・EX 絶滅 ・EW 野生絶滅 ・CR+EN 絶滅危惧Ⅰ類 ・CR 絶滅危惧ⅡA類 ・EN 絶滅危惧ⅡB類 ・VU 絶滅危惧Ⅱ類 ・NT 準絶滅危惧 ・DD 情報不足 ・LP 絶滅のおそれのある地域個体群 ・留意 留意種

表7 重要な魚類・底生生物の選定・区内分布

No.	種名	分布域	選定基準	
			環境省レッドリスト2019	レッドデータブック東京2013
1	ニホンウナギ	多摩川・海老取川分枝点	EN	VU
2	ミナミメダカ	田園調布～鶉の木緑地	VU	CR+EN
3	トビハゼ	大師橋緑地	NT	CR
4	アシシロハゼ	多摩川・海老取川分枝点		留意
5	アベハゼ	大師橋緑地、四之橋～諏訪橋		NT
6	マサゴハゼ	大師橋緑地、四之橋～諏訪橋	VU	VU
7	ヌマチチブ	田園調布～鶉の木緑地、多摩川・海老取川分枝点		留意
8	チチブ	四之橋～諏訪橋		留意
9	ピリンゴ	大師橋緑地、多摩川・海老取川分岐点、京浜島つばさ公園		NT
10	ヤマトシジミ	大師橋緑地、多摩川・海老取川分枝点	NT	留意
11	テナガエビ	田園調布～鶉の木緑地、大師橋緑地、四之橋～諏訪橋		留意
12	ユビナガスジエビ	多摩川・海老取川分枝点、四之橋～諏訪橋、京浜島つばさ公園		留意
13	シラタエビ	大師橋緑地、多摩川・海老取川分枝点		留意
14	クロベンケイガニ	四之橋～諏訪橋		留意
15	モクズガニ	田園調布～鶉の木緑地、八幡橋付近		留意
16	アシハラガニ	大師橋緑地		留意
17	チゴガニ	大師橋緑地、多摩川・海老取川分岐点		留意
18	コメツキガニ	大師橋緑地、多摩川・海老取川分岐点、京浜島つばさ公園		留意
19	ヤマトオサガニ	大師橋緑地、多摩川・海老取川分岐点、四之橋～諏訪橋		留意
20	ハグロトンボ	田園調布～鶉の木緑地		VU
計	20種	-	5種	20種

表8 重要な鳥類の選定・区内分布

No	種名	分布域	選定基準		
			絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境省レッドリスト2019	レッドデータブック東京2013
1	スズガモ	洗足池除く各地点			留意
2	カイツブリ	田園調布～鶴の木緑地、洗足池、ふるさとの浜辺公園			NT
3	カンムリカイツブリ	大師橋緑地、京浜島つばさ公園～緑道公園、呑川河口～森ヶ崎の鼻			留意
4	ササゴイ	京浜島つばさ公園～緑道公園、呑川河口～森ヶ崎の鼻、ふるさとの浜辺公園			CR
5	ダイサギ	洗足池除く各地点			VU
6	チュウサギ	田園調布～鶴の木緑地		NT	VU
7	コサギ	全ての地点			VU
8	ヒクイナ	六郷橋緑地		NT	CR
9	バン	六郷橋緑地			VU
10	オオバン	全ての地点			VU
11	ムナグロ	六郷橋緑地、大師橋緑地、ふるさとの浜辺公園			VU
12	コチドリ	田園調布～鶴の木緑地、六郷橋緑地、大師橋緑地、ふるさとの浜辺公園			VU
13	セイタカシギ	六郷橋緑地、大師橋緑地		VU	EN
14	タシギ	六郷橋緑地			VU
15	チュウシャクシギ	六郷橋緑地、大師橋緑地、京浜島つばさ公園～緑道公園、呑川河口～森ヶ崎の鼻			VU
16	アオアシシギ	六郷橋緑地			NT
17	キアシシギ	六郷橋緑地、大師橋緑地、京浜島つばさ公園～緑道公園、呑川河口～森ヶ崎の鼻			VU
18	イソシギ	洗足池を除く各地点			VU
19	キョウジョシギ	京浜島つばさ公園～緑道公園、呑川河口～森ヶ崎の鼻、ふるさとの浜辺公園			VU
20	コアジサシ	洗足池を除く各地点	国際 ^{注1}	VU	EN
21	ミサゴ	六郷橋緑地、大師橋緑地		NT	EN
22	トビ	洗足池を除く各地点			NT
23	ツミ	洗足池			CR
24	ノスリ	大師橋緑地			EN
25	カワセミ	六郷橋緑地、洗足池			VU
26	チョウゲンボウ	田園調布～鶴の木緑地、六郷橋緑地、大師橋緑地、京浜島つばさ公園～緑道公園			EN
27	モズ	田園調布～鶴の木緑地、大師橋緑地			VU
28	ヒバリ	田園調布～鶴の木緑地、京浜島つばさ公園～緑道公園			VU
29	オオヨシキリ	田園調布～鶴の木緑地、六郷橋緑地、大師橋緑地、京浜島つばさ公園～緑道公園			VU
30	イソヒヨドリ	田園調布～鶴の木緑地、大師橋緑地、京浜島つばさ公園～緑道公園、呑川河口～森ヶ崎の鼻			DD
31	オオジュリン	六郷橋緑地、大師橋緑地			NT
計	31種	-	1種	5種	31種

注)「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」におけるコアジサシの扱いについては、平成29年に施行された法律施行規則の一部改正に伴い、それまでの種コアジサシ全体の指定から、亜種 *Sterna albifrons browni* のみの指定へと改められた。通常日本に生息する亜種コアジサシ (*Sterna albifrons sinensis*) は該当しないこととなったが、亜種 *Sterna albifrons browni* の日本への飛来事例があることや、野外での両亜種の識別が困難な場合があることから、選定基準として表記した。

7 まとめ

区内水域で水生生物（魚類、底生生物、鳥類）調査を実施した。

魚類は8目14科34種、底生生物は25目43科56種、鳥類は14目34科71種が確認された。

多摩川・運河海域では水域のほか干潟やヨシ帯など、水生生物の生息環境として、多様で良好な環境が整備・維持されていることを確認した。内川や呑川の上流

部でも生物の生息に配慮した環境が整備され、重要種を含む水生生物が確認された。また、洗足池では 30 種の鳥類が確認された。

重要種の選定にあたっては、①文化財保護法(昭和 25 年)、②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年)、③環境省レッドリスト 2019(環境省、平成 31 年)及び④レッドデータブック東京 2013(東京都環境局、平成 25 年)を基準とした。魚類・底生生物では③と④、鳥類では②、③、④に該当する生物が合計 51 種選定された。

このほか、過去年度の調査をみると魚類では平成 25 年度に 33 種、平成 28 年度に 31 種、底生生物では平成 25 年度に 30 種、平成 28 年度に 67 種、鳥類では平成 25 年度に 67 種、平成 28 年度に 74 種が確認されており、魚類と鳥類の種数は過去年度の結果と大きく変わらなかった。底生生物は一般的に環境指標性が高いとされ、平成 28 年度に種数が多く確認されており、他年度と比較して、より環境が安定していたものと考えられる。

以上のことから、区内の水辺環境は、良好で多様性があることが確認された。しかし、羽田空港周辺にみられるような再開発や改修工事等のほか、本年度は 10 月に上陸した台風 19 号により、多摩川が氾濫するなどの自然要因に伴う環境の変化も生じている。そのため、今後も重要種を中心として水辺環境の変化に伴う水生生物の生息状況を把握するための調査を充実させていくとともに、人にも水生生物にも豊かな環境が構築されるよう努める必要がある。